

| 科目名 | 成人看護学特論 I | | | | 分野・必選別・単位数 | 専門科目 (成人看護学) | 選択必修 | 2単位 |
|----------------------|--|---|----|---------------|--|-----------------|--------|-----|
| 担当教員 | ◎教授 南川雅子 | | | | | 科目ナンバー | T2C204 | |
| 課程 | 博士後期 | 配当年次 | 1年 | 配当学期 | 前期 | 授業方法 | 講義 | |
| 授業の概要 | 成人各期にある様々な健康レベルの人々の療養上の課題に対応している国内外の研究論文を諸側面から捉え、看護ケアの発展性、可能性について検討し、研究的知見を深める。療養上必要な専門知識と看護技法を看護学として体系化し、健康上の課題の解決とケアの展開能力を発展させることを目的とする。 | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | ①成人各期にある人・家族の療養上の課題を1つ取り上げ、身体・心理・社会・霊的側面から分析できる。 ②成人各期にある人・家族の療養上の課題を解決するための看護介入技法の体系化について検討できる。 | | | | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 担当者 | | | 行動目標 | | | |
| | 1 | 南川 雅子 | 教授 | | 科目概説 本科目の概要を説明できる。 | | | |
| | 2 | 南川 雅子 | 教授 | | 療養上の課題の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題について、身体・心理・社会・霊的・倫理的側面から分析する。 | | | |
| | 3 | 南川 雅子 | 教授 | | 療養上の課題の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題について、身体・心理・社会・霊的・倫理的側面から分析する。 | | | |
| | 4 | 南川 雅子 | 教授 | | 療養上の課題の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題について、身体・心理・社会・霊的・倫理的側面から分析する。 | | | |
| | 5 | 南川 雅子 | 教授 | | 療養上の課題の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題について、身体・心理・社会・霊的・倫理的側面から分析する。 | | | |
| | 6 | 南川 雅子 | 教授 | | 療養上の課題の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題について、身体・心理・社会・霊的・倫理的側面から分析する。 | | | |
| | 7 | 南川 雅子 | 教授 | | 看護介入技法の体系化の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題を解決するための看護介入技法の体系化について検討する。 | | | |
| | 8 | 南川 雅子 | 教授 | | 看護介入技法の体系化の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題を解決するための看護介入技法の体系化について検討する。 | | | |
| | 9 | 南川 雅子 | 教授 | | 看護介入技法の体系化の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題を解決するための看護介入技法の体系化について検討する。 | | | |
| | 10 | 南川 雅子 | 教授 | | 看護介入技法の体系化の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題を解決するための看護介入技法の体系化について検討する。 | | | |
| | 11 | 南川 雅子 | 教授 | | 看護介入技法の体系化の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題を解決するための看護介入技法の体系化について検討する。 | | | |
| | 12 | 南川 雅子 | 教授 | | 看護介入技法の体系化の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題を解決するための看護介入技法の体系化について検討する。 | | | |
| | 13 | 南川 雅子 | 教授 | | 看護介入技法の体系化の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題を解決するための看護介入技法の体系化について検討する。 | | | |
| | 14 | 南川 雅子 | 教授 | | 看護介入技法の体系化の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題を解決するための看護介入技法の体系化について検討する。 | | | |
| 15 | 南川 雅子 | 教授 | | 講義の振り返りと習熟度確認 | | | | |
| 事前事後学修の内容およびそれに必要な時間 | 【事前学修】 | 指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 回次の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。 | | | | | | |
| | 【事後学修】 | 授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。 | | | | | | |
| | 【必要時間】 | 当該期間に30時間以上の予復習が必要。 | | | | | | |
| 教科書 | 必要に応じて適宜提示する。 | | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて適宜提示する。 | | | | | | | |
| 成績評価の方法および基準 | プレゼンテーションに必要な資料作成30%、課題達成状況70%により評価する。 | | | | | | | |
| その他履修上の注意事項 | 試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP1が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。 | | | | | | | |

| 科目名 | 成人看護学特論 I | | | 分野・必選別・ 単位数 | 専門科目 (成人看護学) | 選択必修 | 2単位 |
|---------------------|--|---|-------------|--|-----------------|--------|--------|
| 担当教員 | ◎教授 林さとみ | | | | | 科目ナンバー | T2C204 |
| 課程 | 博士後期 | 配当年次 | 1年 | 配当学期 | 前期 | 授業方法 | 講義 |
| 授業の概要 | 看護の知識構造、看護学におけるメタパラダイムの構成要素、理論・科学・実践の関係性について、その詳細を検討する。現代の社会環境・医療における成人各期にある人々とその家族の健康成果に関連する課題について、国内外の既存の研究成果に基づき、看護学や看護実践の発展に向けたニーズ、研究の可能性の視点から検討する。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | ①看護における知識構造、看護学におけるメタパラダイムの構成要素の詳細、看護における理論、科学、実践の関係性の検討に基づき、その詳細を説明できる。 ②成人各期にある人々とその家族の健康成果に関連する課題を明確にできる。 ③既存の研究成果に基づき、看護学や看護実践の発展に向けたニーズ、研究の可能性の視点から成人各期にある人々とその家族の健康成果に関連する課題について検討できる。 | | | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 担当者 | | 行動目標 | | | |
| | 1 | 林 さとみ | 教授 | 科目概説から本科目の概要を明確にし、学習計画を立案できる。 | | | |
| | 2 | 林 さとみ | 教授 | 看護における知識構造について説明できる。# 1 | | | |
| | 3 | 林 さとみ | 教授 | 看護における知識構造について説明できる。# 2 | | | |
| | 4 | 林 さとみ | 教授 | 看護学におけるメタパラダイムについて説明できる。# 1 | | | |
| | 5 | 林 さとみ | 教授 | 看護学におけるメタパラダイムについて説明できる。# 2 | | | |
| | 6 | 林 さとみ | 教授 | 理論・科学・実践の関係性について説明できる。# 1 | | | |
| | 7 | 林 さとみ | 教授 | 理論・科学・実践の関係性について説明できる。# 2 | | | |
| | 8 | 林 さとみ | 教授 | 成人各期にある人々とその家族の健康成果に関連する課題に関する既存の研究成果をクリティークできる。# 1 | | | |
| | 9 | 林 さとみ | 教授 | 成人各期にある人々とその家族の健康成果に関連する課題に関する既存の研究成果をクリティークできる。# 2 | | | |
| | 10 | 林 さとみ | 教授 | 成人各期にある人々とその家族の健康成果に関連する課題に関する既存の研究成果をクリティークできる。# 3 | | | |
| | 11 | 林 さとみ | 教授 | 成人各期にある人々とその家族の健康成果に関連する課題に関する既存の研究成果をクリティークできる。# 4 | | | |
| | 12 | 林 さとみ | 教授 | 成人各期にある人々とその家族の健康成果に関連する課題に関する既存の研究成果をクリティークできる。# 5 | | | |
| | 13 | 林 さとみ | 教授 | 看護学や看護実践の発展に向けたニーズ、研究の可能性の視点から、成人各期にある人々とその家族の健康成果に関連する課題について検討できる。# 1 | | | |
| | 14 | 林 さとみ | 教授 | 看護学や看護実践の発展に向けたニーズ、研究の可能性の視点から、成人各期にある人々とその家族の健康成果に関連する課題について検討できる。# 2 | | | |
| 15 | 林 さとみ | 教授 | 検討結果のまとめ・発表 | | | | |
| 事前事後学修の内容及びそれに必要な時間 | 【事前学修】 | 指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。 | | | | | |
| | 【事後学修】 | 授業中の疑問点をまとめ、教科書・文献等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。 | | | | | |
| | 【必要時間】 | 当該期間に30時間以上の予復習が必要。 | | | | | |
| 教科書 | 必要に応じて適宜提示する。 | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて適宜提示する。 | | | | | | |
| 成績評価の方法および基準 | プレゼンテーション25%、討論への参加状況と内容25%、課題レポート50%により評価する。 | | | | | | |
| その他履修上の注意事項 | 課題やレポート等に対し、講義の中で解説等のフィードバックを行う。カリキュラムマップのDPIが、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。 | | | | | | |